

視覚障害者誘導用ブロックの維持補修に係る 計画書

令和3年2月

府中町建設部維持管理課

1.背景・目的

平成 18 年に「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」が制定され、視覚障害者の自立した日常生活の確保および移動等の円滑化を目的として視覚障害者誘導用ブロックの設置が全国で進められてきた。府中町においても、同法に基づき「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づく移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例（平成 24 年条例第 33 号）」を定め、誘導用ブロックを設置している。現在、歩道幅が十分にあり公共施設に近い箇所に誘導用ブロックを設置している状態であるが、その一方で、誘導用ブロックが損耗している箇所もいくつか見られる。そしてこの誘導用ブロックの損耗が、かえって視覚障害者の歩行を危険にしているという声も挙がっている。また、誘導用ブロックの損耗に関して、広島県の交通安全事業設計要領の中でも、損耗・破損が見られた際には直ちに復旧等の措置をすることが求められている。

このことから誘導用ブロックを補修し、視覚障害者の歩行の安全性を確保するため、『視覚障害者誘導用ブロックの維持補修に係る計画書』を策定する。

2. 視覚障害者誘導用ブロックの維持補修に係る計画の方針

2-1 調査方法並びに調査結果

令和 2 年度に町内にある総延長 27,260m の誘導用ブロックを踏査した。

（点検期間：6 月 3 日から 6 月 22 日の内計 7 日間）

踏査の際には、杖状の器具を用いて誘導用ブロックの損耗状態の確認を行った。距離の測定は距離測定ソフトを用いた。

	歩道総延長 (m)	誘導用ブロック 設置距離 (m)	誘導用ブロッ ク設置率 (%)	損耗距離 (m)	健全率 (%)	損耗率 (%)
町道	23,817m	27,260 m	68.27 %	1,907m	91.85 %	8.15 %
県道	16,112m			315m		
計	39,929m			2,222m		

<視覚障害者誘導用ブロックの損耗状態>

誘導用ブロックの損耗箇所としては、欠損、ひび割れ等が発生している状態及び杖を用いた調査で抵抗が感じられなかった箇所を挙げている。

職員による調査状況



ブロックが剥れている状態



欠損が発生している状態



ひび割れが発生している状態



なお、今後の点検調査に関しては原則として5年ごとに実施するものとする。

2-2 計画期間

計画期間は、令和3年度（2021年度）～令和12年度（2030年度）の10年間とする。

また、実態に沿った計画となるよう、誘導用ブロックの点検調査を加味し、5年ごとに計画の見直しを行うこととする。

2-3 維持補修方針

補修に関しては、主に公共施設や商業地付近並びにそれに通じる歩道の誘導用ブロックを優先的に実施していく予定である。その際には視覚障害者関係団体等と協議を行い、ニーズ及び使用頻度の高い箇所を優先的に補修していくこととする。また、その他の箇所については、歩道の舗装補修に合わせて誘導用ブロックの補修も実施することとする。

3. 概算工事費

誘導用ブロックの種類としては、熔融式、貼り付け式、埋込み式の3つに分類することができる。

広島県の交通安全事業設計要領並びに費用対効果、耐久性から、補修の際には、原則として熔融式タイプ又は貼り付け式タイプのブロックを用いることとするが、補修部分周辺で用いられているブロックタイプの種類及び形状に応じて選択することとする。

次頁に概算工事費を示す。

視覚障害者誘導用ブロック（タイプ別特徴）

種類	メリット	デメリット
熔融式タイプ	コストを抑えて点字ブロックの貼り付けができる。	圧に弱く、変形や欠損をしやすい。車が出入りする箇所では、1年も持たないことがある。
貼り付け式タイプ	熔融式タイプに比べると、ブロックの耐久性は高い。車が出入りする箇所であっても、5～6年持つ。	設置時費用が熔融式タイプよりも高い。
埋込み式タイプ	熔融式タイプ・貼り付け式タイプと比較しても、重厚で壊れにくい。	設置にあたって、コストや時間がかかる。

令和 3 年度（2021 年度）から令和 12 年度（2030 年度）までの 10 年間で誘導用ブロックの補修を実施していく計画とする。

なお、補修予定箇所は、別紙記載。

	補修延長(m)	費用（円）
町道	1,907	7,246,600
県道	315	1,197,000
総延長	2,222	8,443,600